



モアイ像はだれが作ったの

西のポリネシア諸島か、東の南米からきた人たち

太平洋に浮かぶイースター島は、南米のペルーやチリから4000キロメートル、いちばん近い島でも2000キロメートルあります。島の長さは、わずか25キロメートルしかありません。この島に、巨大なモアイ像がいくつも立っているのです。この島のいちばんのなぞは、島民がはたしてどこからきたかということです。島の西の方にポリネシア諸島があり、ここからきたという説、東の南アメリカ大陸からきたという説などまちまちです。

木の文字板はあるが、解読できず

この小さな島では何回か戦闘があり、生き残った人々も、150年ほど前にペルーからきたどれい船が、ほとんどの人たちをつれ去ってしまいました。残った島民の多くも、死亡してしまっているのです。そのため、島の歴史を知っている人は、いなくなりました。木の文字板が残されていますが、今だに、だれも読むことができません。

したがって、モアイ像がだれによって作られたのか、まったく不明なのです。しかし、モアイ像を作った石切り場のあとは残っていますから、この島でモアイ像が作られたことはたしかなようです。(監修・保岡 孝之)

